

日本の声・日本の音

この公演は若い伝承者の育成を目指しています。

# 女流

芸の鼓動、若き息吹

花のように香れ

(一) ちよつと義太夫

お話 竹本越孝

(二) 絵本太功記

妙心寺の段

太夫 竹本京之助  
三味線 鶴澤駒治

(三) 恋女房染分手綱

道中双六の段

太夫 竹本越里  
三味線 竹本綾一  
鶴澤津賀榮  
鶴澤賀寿  
鶴澤弥々



鶴澤 弥々



鶴澤 賀寿



鶴澤 津賀榮



竹本 越里



竹本 京之助



竹本 綾一

# 義太夫

第五回

平成二十八年  
三月二十一日(月・祝)

蕨市立文化ホールくるる

開場 午後一時三十分 開演 午後二時〇〇分  
料金 二、〇〇〇円 《全席自由》

主催 ココの会  
共催 蕨市立文化ホールくるる  
協力 一般社団法人義太夫協会



# 女流

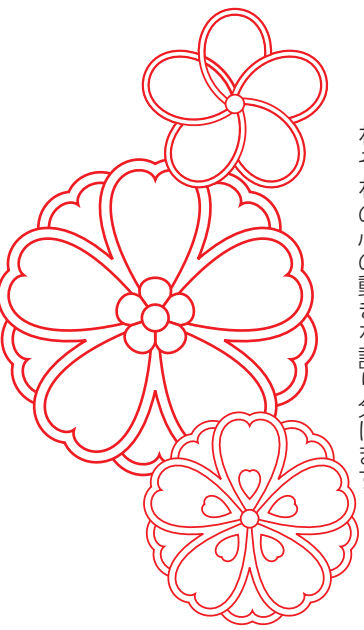
## 義太夫

### 絵本太功記

#### 妙心寺の段

課題曲です。三人の太夫が交代で、先輩三味線奏者の胸を借りて長い物語の導入部分(口、とじします)を語ります。

物語は、明智光秀が織田信長を討った「本能寺の変」を下敷きにしています。主君尾田春長に対して謀反を起こした武智光秀は、本能寺を急襲して自害に追い込んだ。真柴久吉(羽柴秀吉)の逆襲を予想し、迎え撃つため妙心寺に陣を構えている。光秀の母早月は息子の不忠を許せず、苛立ちを隠せない。光秀の妻操、嫡男十次郎、許嫁の初菊や家臣たちの運命も激変した。悲劇に見舞われていく武智家の人物それぞれ心の動きを語り分けます。



義太夫節は、三味線の音に乗せて太夫が物語を語っていく「浄瑠璃」と呼ばれる日本音楽(邦楽)の一つです。元禄時代の浄瑠璃語りの一人であった竹本義太夫が創始したので、この名があります。もともとは人形芝居の伴奏音楽として発展してきた義太夫節は、人気が高まるにつれて庶民の間に愛好者が広がり、芝居を離れ稽古事として純粋に音楽を楽しむ風潮も生まれます。基本的に太夫一人・三味線一人で語るもので、これを「素浄瑠璃」といいます。初めは男性の嗜みでしたが、やがて女性たちも楽しむようになります。お座敷や寄席などにも進出して、プロとして活動する女性たちが生まれしました。これが女義太夫(娘義太夫トモ)で、二百五十年余の歴史を重ねてきました。女義太夫は、今日では女流義太夫という呼称が一般的です。明治・大正時代には「どつする連」という熱狂的なファン(今風に言えば「追っ駆け」です)を産むなど、社会現象になるほどの人気でした。《花のように香れ 女流義太夫》公演は、女流義太夫の良さを多くの方々知って欲しい、伝統を明日につなげたいと日々努力している若い伝承者たちを応援したい一こころな思いで実施しています。登場人物の描き分けが難しい演目を課題曲として取り上げ、更なる技芸の上達を図って挑戦していくシステムです。是非一度お出かけください。



絵本太功記 妙心寺の段の正本(台本)

### 恋女房染分手綱

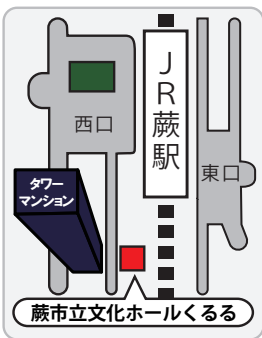
#### 道中双六の段

物語は十三段で構成されます。主筋になっているのは、丹波国の大名由留木家の御家騒動です。

「道中双六」は十段目。由留木家の娘で十二歳になる調姫は、江戸幕府の典礼を取り仕切る家柄(高家)の入問家に興入することになります。今日が旅立ちという日、出立の時刻になっても姫は「関東に行きたくない」と駄々をこねて泣いています。殿様も母上も困り果て、家老の本田弥左衛門は江戸の賑やかさや道中の面白さを挙げ立てますが効き目はありません。江戸へ付いて行く乳母重の井は道理を説いて必死に諫めますが、埒はあきません。

皆が困り果てている時、門外から飛ぶように中居の若菜がやってきて「十歳ほどの馬方が東海道の道中双六の絵を広げて遊びます。あれをご覧に入れてはいかがでしょうか」と注進します。渡りに船とばかり、屋敷に招き入れられる馬子の三吉。双六の面白さに姫の機嫌が直る場面を語ります。

### 会場案内



ご予約・お問い合わせは  
一般社団法人義太夫協会  
☎03-3354-1547  
蕨市立文化ホールくるる  
☎048-446-8311

美味しい! 旨い! 上手い!  
蕨市立文化ホールくるる  
PCサイト <http://warabi-t.net>  
当日から15日間 チケット・半券で指定店舗にて10%OFF!